

「Choju」だより

株式会社エース・E&L
代表取締役社長 津田 博通



【認知症の予防】

「Choju」は、2016年11月販売開始以来、様々なお客様のご意見や困っている問題を解決すべく対応して参りました。今回は聴こえを改善し認知症を予防するお話です。また現実にあった認知症の方のお話です。

(認知症になったおじさん)

私の父親の甥っ子のお話です。この方は、55歳まで新日鉄釜石でクレーンの運転手として勤務されていました。新日鉄釜石はラグビーで有名になりましたが、もとは大島高任という方が、日本で初めて鉄を作ったところ。釜石の鉄鉱石は、インドなど高温地の鉄道に使用するレールを作るのに適した素材です。高温での伸び縮みが少ない特性がありました。

55歳で定年後自治会の世話役などをしていましたが、夫婦二人だけの生活に次第に活気がなくなり、60歳を超えたあたりから、夜出歩くようになりました。そのうち、以前勤めた会社の門まで行くようになり、徘徊が始まりました。このため、夜奥さんが旦那さんを追いかける毎日になり、ついに奥さんが、疲れから先に亡くなってしまいました。

私の父と母は、兄が新日鉄釜石から東海製鉄に転勤したため、一緒に移動しました。このためおじさんは、毎日おしゃべりする相手がいなくなり、いっそう孤独になったと思います。この後、介護施設にあずかって貰っていました。

(認知症になった知り合いの親父さん)

知り合いの親父さんは、有名な会社に勤務してバリバリ働いていた方です。若い頃から地元の方々との付き合いがなく、完全な会社人間でした。このため定年後地元の方との付き合いがなく、次第に孤立した生活になってしまいました。この親父さんも、次第に夜会社に出かける様になりました。当初は、帰りの電車に乗って帰宅しましたが、だんだん帰り方がわからず、警察に保護されるようになりました。夜中の2~3時に警察から迎えに来るよという電話が入る様になり、やむなく介護施設に入ってもらったそうです。

(認知症を予防する方法)

認知症の予防には、薬等色々と提案されていますが、一番大事なことは最後まで人と話ができることです。田舎の年寄りも概ね元気で、いつも冗談を言い合っています。隣の家に挨拶なしで入ったり、子供時代のままの生活です。私はこのような田舎の人間関係が認知症の防止に役立つと考えています。聴こえなくなった人たちは、内こもりになり他人との関わりが無くなります。

私は、現在75歳で間もなく親父が亡くなった76歳になります。すでに昔の仲間は仕事を止めています。私から見るとかなりぼけています。私は、仕事だけでなく28年間近所の少年野球に関わっています。このことが、ボケ防止になっていると思います。他人と接することや、いろいろな話題に触れることで、脳が活性化されます。人と話をするためには、聴こえをいつまでも維持することです。2019年10月2日に日経新聞に「Choju」の記事が出ました。この記事を80歳、90歳代の高齢者が見て、「Choju」を購入にたくさんの方が来社しました。元気な方は人と話をしたいため、聴こえる機械を探し求めています。「Choju」はいつまでも聴こえる人生を、送れるようにお手伝いをさせていただきます。

以上